

相談②

- 「学校運営協議会のPDCAサイクルを回すためには、どうすればよいか？（「協議をして終わり」でいいの？）

「熟議の結果を必ず具現化してください」



- 本中学校区（1小学校・1中学校）では、毎年、夏に100人規模の熟議を行っています。
- ただ、本校に着任して早々、教職員から聞こえた声は、「校長先生、去年も一昨年も熟議を行いました。が、熟議で終わっています…」でした。
- そこで私は、教頭とCS担当に「今年は熟議で終わらせないよ。必ず具現化に向けてやるよ。」と伝えました。
- この点は、校長としてこだわった部分です。

助言者：相田 康弘 氏
下関市立長府中学校 校長



「『一緒に』って言葉が大好きです」

- 本校では、生徒の学校生活、生徒会活動・学級活動、生徒総会、熟議、そして学校運営協議会、それら全部の活動を通して熟議の具現化を図っています。
- 今年度、具現化した取組は「あいさつ運動」です。大それた取組ではありませんが、でも、ここまでたどり着くまでに大変苦勞をしました。
- 具現化を熟議だけで実現するのは難しく、学校内外の既存の活動と「一緒にやっていく」という雰囲気を作っていく必要があります。
- 「熟議の具現化」を学校のみで実現することは、学校にかなりの負担が生じますからね。
- キーワードは、「一緒に」です。
- 具現化に向け、「地域の皆さんや保護者をどう巻き込むか、子どもたちの活動といかに絡めるか」、そこがポイントです。
- よって、私は、CS委員の皆さんに「お願いします」とは言いません。「一緒にやりませんか？」と言います。「一緒に」って言葉が大好きですね。

地域との連携・協働の活動

（園・浅江小・浅江中）だより

PTA活動

児童会・生徒会の活動

「家庭教育支援」「PTA部会」の取組

「家庭学習支援」

～浅江中 家庭学習支援～

【活動内容】
「あさなほっぴ」
～浅江中 家庭学習支援～

【活動内容】
「あさなほっぴ」
～浅江中 家庭学習支援～

「地域との連携・協働の活動」

【9月17日】
【10月1日】
【10月2日：朝】

浅江中の生徒会CS委員が浅江小に出向き、この取組の目的、実施方法について6年生に説明しました。この日の結果（1時間以内に抑えた子どもたちは、
■浅江小：70%
■浅江中：80%）でした。大切なことは、この取組を「何のために」行ったのかを、子どもたち一人ひとりが自覚することです。そして、ゆくゆくは小中学生全員一斉家庭一地域全体の取組となることを期待しています。

「熟議の具現化は全教職員がこだわらないといけません」

相田校長資料②

- 上記（「相田校長資料②」）は、教頭時代の話になりますが、小学校と中学校が合同で「SNSの利用」について熟議を行い、会の最後には、SNSの正しい利用方法について「地域と一緒に取り組んでいきましょう」となりました。
- 具現化に向け、まず最初に行ったのがPTAとの連携です。
- 当時のPTAには部会があったので、その部会に「PTAはどのような対策を行うのか考えてください」と伝えました。
- 併せて、児童会・生徒会にも「子どもたちは、どのような対策を行うのか考えてください」と伝えました。
- その結果、PTAでは、家庭教育支援チームとPTAが連動していたこともあり、家庭教育支援チームの取組の一環として「SNS講座」を開催しました。
- また、児童会・生徒会は互いが連携し、毎月1がつく日に、生徒会の執行部が小学校に赴き、メディアコントロールの取組状況を確認する取組（「パスタゲッティ1チャレンジ」）を実施しました。
- このように、「熟議の結果を具現化する」ことは、全教職員がこだわらないといけないことだと思います。